

平成21年度第4回中原区区民会議

平成21年度第4回中原区区民会議が開催されました。

会議では、「第2期中原区区民会議を振り返って」、取り組み報告、各委員の活動報告と第3期区民会議に向けて、その後、市民報告会について、区民会議交流会についての報告が行われました。

会議の内容は次のとおりです。

日時・会場など

平成22年3月19日（金）午後3時から午後5時24分まで

中原区役所5階会議室

会議の傍聴人 5名

会議次第

1 開会

2 会議録確認委員の選任

3 議題

（1）「第2期中原区区民会議を振り返って」

①取り組み報告

②各委員の活動報告と第3期区民会議に向けて

（2）市民報告会について

4 その他

（1）区民会議交流会について

5 閉会

〈事務局から「第2期中原区区民会議を振り返って」取り組み報告〉

- ・第2期中原区区民会議報告書は、第2期中原区区民会議の取り組み内容をまとめたものである。第Ⅰ章は中原区区民会議の概要について、第Ⅱ章は検討のテーマの選定について、第Ⅲ章は第2期に取り組んだ3つのテーマをテーマごとにまとめている。
- ・第2期区民会議の最初に取り上げたテーマは「地域で取り組む放置自転車問題」の状況である。
- ・地域・区民・区民会議の取り組みとして、町内会・自治会を初めとした地域におけるマナー・モラル啓発活動として、啓発用のチラシ、ポスターを作成し、町内会を通じてチラシの各戸回覧、ポスター掲示などを行った。
- ・区民会議委員の出身団体などの取り組みとして、啓発用チラシを各団体の会合等で

配布し、啓発活動を進めるとともに、放置自転車の台数調査などを実施した。

- ・若い世代に向けた啓発活動では、とどろき水辺の楽校や市民提案型事業での出張講座などを行った。若い人が多く集まるイベントなどで、啓発用チラシを配布したり、ホームページやかわさきFMなどを活用した啓発運動を実施した。
- ・駅周辺の商店街における放置自転車対策では、新丸子駅商店街をモデル地区として啓発活動を継続的に実施している。
- ・商店街における放置自転車対策の参考のため、中原区商店街連合会の総会で、第2期区民会議の中間報告書を配布している。
- ・区民と行政の協働による取り組みとして、地域における自主的な取り組みに必要な物品の貸与や放置自転車への警告札張りつけ、撤去活動などを区民と行政が連携して行った。
- ・昨年の春の交通安全キャンペーンでは、区民会議の皆様が区民会議の取り組みをアピールした。
- ・小杉駅周辺再開発地区では、横須賀線武蔵小杉駅の開業に合わせ、横断幕の掲出、声かけ、啓発物品の配布などを行い、放置自転車の禁止と、新しい駐車場の利用促進を図った。
- ・その他の課題として、小杉駅周辺再開発地区をモデル地区とした自転車利用者の動向調査の検討や、再開発地区の放置自転車禁止区域の指定、横須賀線武蔵小杉駅前の駐輪場整備などを行っている。
- ・駅から離れた場所への駐輪場設置、自転車にかわる交通手段の検討は、参考意見として記載している。
- ・2番目の検討テーマ「これからの地域コミュニティづくりを考える」では、地域・区民・区民会議の取り組みとして、町内会や商店街などにアンケートを行い、人が集まることができる場所の抽出を行った。地域の町内会館、自治会館等の案内を記載している。
- ・あいさつの実践におけるコミュニティづくりについては、中原区まちづくり推進委員会と連携して啓発用ポスターを作成し、中原区町内会連絡協議会を通じて掲出を行った。
- ・区民と行政の協働による取り組みについては、小杉駅周辺の再開発事業の進展により、多くの方が新たに生活することになることから、3月13日の横須賀線武蔵小杉駅の開業に合わせ、地域の方が組織した小杉駅周辺再開発地区地域交流促進イベント実行委員会と中原区が協働し、中原区地域交流促進イベントを実施した。
- ・商店街コミュニティ事業については、商店街が地域の情報交換や交流の場となるよう、マナーポスター展、いいなかプロジェクト、料理教室などを実施した。
- ・市民活動の充実の取り組みとしては、市民活動の集いを前夜祭として、参加者同士

の交流会を企画するとともに、開催当日は、来場者に対して市民活動への参加を促す取り組みを行い、市民活動の活性化を通じたコミュニティの形成を図った。

- ・再開発が進む小杉駅周辺再開発地区等における地域コミュニティづくりの充実については、講演会やワークショップの開催、啓発用リーフレットの配布を行った。
- ・町内会・自治会活動を活性するための支援として、加入促進用パンフレットを配布した。
- ・大型マンション住民の組織化に向けた支援については、他都市事例の調査や、住民組織の交流を促進する働きかけを実施した。
- ・ボランティア参加促進策については、参考意見として、区民会議で取り上げた課題解決の取り組みの窓口となる組織の検討については、実施主体の検討が必要な課題となっている。
- ・最後の検討テーマである「まちの魅力を見つける」については、地域・区民・区民会議の取り組みとしては、まちの魅力の発信・共有として、区民会議委員が挙げた魅力を各種情報媒体で紹介し、魅力の共有を図った。あなたにとって魅力あるところはどこですかという形で魅力スポットを紹介している。
- ・区民と行政の協働による取り組みとして、なかはらの歌による魅力の発信・共有として、なかはらの歌「この街のどこが好き？」を商店街の放送設備を利用して流したり、イベントのコンサートで演奏するなどの取り組みを実践した。
- ・写真によるまちの魅力の発信・共有については、市民提案型事業においてフォトコンテストを企画・実施する団体を募集し、公開プレゼンテーションを実施した。
- ・中原区魅力紹介冊子による魅力の発信・共有については、「中原区観光ガイド育成講座」の報告書とともに、中原区魅力スポットガイド「なかはらが好き」を発行した。
- ・映像による魅力の発信・共有について、魅力スポットを紹介する広報用映像を作成していきたい。
- ・二ヶ領用水竣工400年記念事業と連携した魅力の発信・共有については、昔の生活様式や地域のエピソードを収集し、ガイドブックを作成、「歴史と緑の散策マップ」を改訂し、二ヶ領用水の認知度向上と区民のふるさと意識の向上につなげていきたい。
- ・地域の音楽資源を活用した魅力の発信・共有については、区内の学校や企業などの音楽資源を活用し、JR横須賀線武蔵小杉駅の開業に合わせて実施したイベントの中で演奏し、中原区の魅力を発信した。
- ・市政日より中原区版による魅力の発信・共有については、「この街のどこが好き？」を区民の投稿写真をもとに編集し、中原区の魅力を紹介している。

〈各委員の活動報告と第3期区民会議に向けて〉

- ・あいさつ運動は小学校を通じて地元に定着している。

- ・子育てサロンの参加人員も多く、引き続きやっていければいいと思う。
- ・大型マンションが多くできているので、子ども会への参加を呼びかけ、子ども会を充実していきたい。
- ・3月13日の武蔵小杉の新駅のイベントに参加し、コンサートの運営に協力でき、いい形で実行できた。今後もまちづくりに協力していきたい。
- ・富士通の春まつりでブラスバンドが演奏する。「なかはらの歌」を西中原中学校で演奏するなどして、もう少し広がっていければいいと思う。
- ・中原区PTA協議会では、放置自転車問題について、自共生の協力をいただき、各家庭に啓発をしてきた。
- ・武蔵小杉駅前の駐輪場は定期の部分はいっぱいになったが、一時利用は余裕がある。大きな駐輪場はコンベアで自転車を乗せられる。二ヶ領用水の駐輪場も防犯面で問題はない。旧市民館の駐輪場も利用できるので、ぜひ利用してもらいたい。
- ・新丸子の駅周辺も放置自転車が減ってきたが、駐輪場が全くできない。
- ・去年の文化の日にエポックなかはらで「なかはらの歌」の演奏を聞いた。いい歌なので、イベントがあるたびにかけたい。
- ・「中原まちづくり通信」に写真を載せている。これからも頑張っていきたい。
- ・自転車の問題について、青少年指導員連絡協議会でも啓発を行い、無灯火の人に声をかけている。
- ・自主グループでは、中原市民館で、防災編、くらし編、子育て編、防犯編、まとめ編と、自主企画講座を5回行った。住みたいまちナンバーワンにふさわしいまちにしていきたい。
- ・集合住宅や高層マンションに住んでいる人が多いので、よりよい人間関係を形成していきたい。
- ・社協としては、いろいろな行事を行う中でコミュニティづくりをしている。
- ・「なかはら歴史と緑の散策マップ」をつくって中原のよさをアピールしている。
- ・パンジーの花を飾り、まちを盛り上げていきたい。
- ・小杉は交通の便がいいので、ほかに出かけて、寝に帰るだけになっている。地元でもコンサートやミュージカルが見れて、おいしいものが食べられるまちになったらいいと思う。
- ・フロンターレ、法政二高などがあるので、子どもがスポーツに目を向け、接する状況をつくっていただきたい。
- ・自転車と共生するまちづくりを行ってきた。区民会議の課題に取り上げられたことで、マスメディアも来てくれ、関係団体と連携し、活動することができた。
- ・「なかはらの歌」をこれからも広めていきたい。
- ・区民会議交流会に参加した。中原区は一生懸命やっているとほかの区の人たちから

うらやましがられた。

- ・高層マンションに引っ越してきたお年寄りが友達が欲しいと言っている。
- ・区民会議に若い人に出てきてもらいたい。学生に参加してもらえると活性化するのではないか。
- ・社会福祉協議会ではリバイバルの映画会を行い、好評だった。人を集め、コミュニティに役立てていきたい。
- ・子育てサロンでは、コミュニティの場として、マナー等についてもアドバイスしている。パパママパークこすぎでは、お父さん同士の交流の場を設けている。
- ・再開発地区のマンション住民が急増している。イベントではミニ南武線を走らせ、楽しんでもらえた。マンション同士の交流を行っていきたい。
- ・新駅が開業することで、防犯、防災面にさらに取り組んでいきたい。
- ・小杉駅の開業で、人の流れが変わった。違法駐輪がふえることが心配である。
- ・新横須賀線は成田や東北方面にも行けるので、大型のタクシーも並んでいる。新たな取り組みも必要である。
- ・工場協会で会館を建設していきたい。
- ・区民会議交流会で各地区の発表を聞いたが、中原区をまねようとしているように感じた。中原区は若い人もたくさん入っている。市長も高く評価してくれた。
- ・地域の若者を育てるためにも祭りや行事に参加させてほしい。
- ・父親が子どもに接する機会を設けてもらいたい。
- ・中原区は医療面ではすぐれているが、痴呆症を扱う科がほとんどない。
- ・小中学校をふやすとともに、保育所も足りないので、ふやしてもらいたい。
- ・次期の区民会議のテーマに、地震の対策を初め、安全安心まちづくりを入れてもらいたい。
- ・保育園の子どもと砂場で一緒に遊ぶなど、保育士だけでは手が足りないので、老人クラブで協力していきたい。青空の下でコミュニティをやっていきたい。
- ・自然の風が吹く多摩川、等々力緑地、二ヶ領用水などを通して、自然を発信していきたい。
- ・区民会議とまちづくり推進委員会で連携しながらこれからもやっていきたい。
- ・区民会議の2期は、区民会議という器を使って課題を解決し、成果も上がっている。3期は、ハードの問題は扱いにくいと言われているが、どんなテーマでも扱っていくことが大切だと感じている。

〈鈴木副委員長から市民報告会について報告〉

- ・2年間で取り組んだことを発信していきたい。質問に対して自分の言葉でちゃんと答えるような会にしていきたい。

- ・平成22年5月23日（日）午後2時から午後4時、中原区役所5階501～503会議室で行う。
- ・役割分担として、藤枝委員長、鈴木副委員長が司会を行い、竹井副委員長が区民会議の制度について説明する。放置自転車のグループ、コミュニティのグループ、まちの魅力のグループに分かれ、スペースを3つつくる。まず報告会を行い、その後、おいでになった人と交流する。
- ・たくさんの人に来てもらいたい。

〈藤枝委員長から区民会議交流会について報告〉

- ・区民会議交流会が平成22年3月14日（日）に中原市民館で開催された。
- ・中原区からは、藤枝委員長、鈴木副委員長、横川協働推進事業検討部会長、7区から20名の区民会議委員が出席した。
- ・各区取り組み状況の説明の後、意見交換を行った。
- ・地域のつながりや世代間のつながりなど、コミュニティを課題としている区や、まちの魅力や宝物の発見、発信を課題としている区、環境やエコロジーを課題としている区が多くあった。
- ・意見交換では、地域課題の把握方法については、出前フォーラムやアンケート配布、ホームページや目安箱の利用、各委員の出身団体からの課題を収集することなどが挙げられた。
- ・区民会議提言の具体的な実現について、各委員の出身団体のネットワークを生かす。担い手となる関係者がかかるモデル事業を行う。担い手をイメージして調査・審議する。
- ・第3期の区民会議に向けての自由意見では、毎年、今回のような情報交換会を開催することが合意された。区民会議委員には年配者が多いので、若い世代の声を反映する工夫が必要だろうという意見が出ている。
- ・市長からのコメントは、課題はたくさんあるので、分類、整理していく必要があるのではないか。区民会議がコーディネーター機能を発揮して課題を解決する方法、協働推進事業で取り組む課題を解決する方法など、さまざまな解決方法があるという話があった。
- ・最後にまとめたキャッチフレーズとして、区民会議はまちの課題のホームドクター、取り組み実行は区民みんなの底力、市民協働で課題解決が発表された。